

第3回 須磨海浜水族園・海浜公園再整備事業者選定委員会 議事要旨

日 時：2019（令和元）年9月2日（月）

①10時10分～10時25分 ②15時45分～17時15分

場 所：①TKP 神戸カンファレンスセンター カンファレンスルーム5C

②神戸市経済観光局観光企画課 大会議室（シャークルーム）

参加者：□委員長、□委員、□委員、□委員、□委員、□委員

建設局公園部 広脇局長、大西課長 経済観光局観光 MICE 部 安岡部長、安居課長

議 題：①ヒアリングの進め方及び選定の方法について

②設置等予定者候補者（優先交渉権者候補者）の選定および講評等について

報 告：一次審査の結果について

要 旨：

（1）議事①および報告事項

- ・ヒアリングの進行について、質疑応答の時間配分について、実施体制5～10分、全体の整備計画で10～15分、施設ごとの整備計画で25～35分を目安とする。
- ・できるだけポイントを絞って質問をしてほしい。（委員長）
- ・園地・水族館の配点について、細分化する案もあったが、これまでに説明している評価の視点を参考に、選定委員ご自身で配点を決めて採点いただくこととする。
- ・ヒアリングの進行、選定委員会の流れについて、異議なし→合意。

（2）議事②設置等予定者候補者（優先交渉権者候補者）の選定および講評等について

<集計結果の公開>

	配点	Cグループ							Gグループ							
		A	B	C	D	E	F	平均	A	B	C	D	E	F	平均	
実施体制	事業者の体制及び事業計画	30	24	25	23	15	22	20	21.5	20	20	20	15	25	15	19.2
全体の整備・運営計画	事業全体の実施方針	30	23	25	25	18	18	30	23.2	22	25	20	10	22	30	21.5
	整備計画	30	22	23	25	16	16	20	20.3	20	18	20	10	24	15	17.8
	運営・マネジメント	30	24	26	20	21	22	20	22.2	20	20	20	13	24	15	18.7
	周辺環境との連携・調和	20	15	16	15	13	14	20	15.5	15	12	15	12	16	20	15.0
施設ごとの整備・運営計画	園地（特定公園施設）	50	35	46	40	30	35	40	37.7	35	40	35	20	40	40	35.0
	水族館	110	88	95	90	75	77	90	85.8	85	80	70	20	82	60	66.2
	宿泊施設	30	22	25	25	20	21	30	23.8	20	20	20	10	21	20	18.5
	駐車場	20	15	15	10	10	10	15	12.5	15	10	10	10	15	20	13.3
	にぎわい施設	10	7	10	8	6	7	5	7.2	5	6	8	4	8	10	6.8
	価額提案	40	28							26						
合計	400	303	334	309	252	270	318		283	277	264	150	303	271		
平均点		297.7							258.0							
割合		74.4%							64.5%							

	A	B	C	D	E	F
Cグループ	303	334	309	252	270	318
Gグループ	283	277	264	150	303	271

- ・審査の結果、5名がCグループ、1名がGグループの方が優れていると判断した。
- ・Cグループの方が優れていると評価した各委員については、全体の結果と個別の項目の結果で評価が逆転しているものはほとんどなく、基本的には全ての項目でCが優勢となっている。5人のうち、1名だけ、駐車場、にぎわい施設について、Gの評価の方が高くなっている。
- ・各委員の採点の幅によって、平均点が影響をうけ、全体の評価に影響を与えることもあるが、今回は一番配点の大きい水族館の評価（最大D：55点差）を差し置いても結果には影響を与えない。

( ) 委員)

- ・選定委員Eは私。Cグループの提案も中身はよく考えられていると思ったが、余りにも鴨川シーワールドであり、神戸にこれをつくる必要があるのかというのが一番の疑問だった。
- ・海浜公園の再整備という観点からするとGグループは視点場をたくさん作っていて海とのつながりを考えられていた。事業区域外の提案については、今後港湾局との協議ということで、提案としては弱いと感じたが、それを差し置いても、高低差や地形を読み取って、現存の松林を核としつつ、無料で入れる場所から海が見えるように工夫されていた。
- ・水族園について、質疑応答からラグーンにおける生態系の再現については提案書のイメージどおりに成り立たないという印象はもったが、本館については、そんなに無理のあるものではないと思った。
- ・バイオドームとラグーンはインパクトがある場所を作ろうとしている試みで、そこで少しチャレンジをしてみようということだろうと思うが、これはこれでよいと思った。
- ・Cグループのシャチについては、見せ物的なショーが今後事業期間において持続できるのか疑問に思った。ショーに関する質問に対する答えも今現状の人気コンテンツであるということだったが、かなり後ろ向きな回答という印象をもった。
- ・これから作るものとして、今ある成功例を選ぶことには反対だが、既存の成功モデル・シャチショーを良しとすればCグループの提案もありだとは思う。
- ・Cグループの提案では、今と同様に、海浜との断絶感が解消されていない。
- ・Cグループはパークマネジメント会社をつくってマネジメントをするという提案だが、出資額からして水族館・宿泊施設が圧倒的な意見力を持つことになる。市民参加型ではなく、水族館・宿泊施設の収益が一番に考えられるのではないか。

( ) 委員)

- ・Gグループの水族館は高等向け。また実現不可能と考えられるものが多いと感じた。
- ・大水槽の提案はよいが、中に展示する生物にインパクトが無い。センスがない。
- ・Cグループの水族館はいつみたら平凡だが、施設として魚類棟は多少の工夫がみられる。滝をつくる提案もよいと思う。オルカで客寄せするのは現実的。基本は素人(子

ども・家族) がくることを考えると、集客力という点では妥当と思った。

- ・海遊館のジンベイザメに対抗しようと思うと、オルカしかないと思う。

[ ] 委員長)

- ・景観ランドスケープの面で鳥瞰図をみると、G グループは海との接続もよく考えられていると思った。どちらの事業者が採択されるにしても、これについては意見を付して実現してもらってもよいと思う。
- ・G グループの提案は、神戸市が求めている、公園の西側も人でにぎわうエリアにという思いを意識し過ぎるあまり、プランを活かしきれなかったのかもしれない。

[ ] 委員)

- ・このエリアの近くに住んでいたことがあるが、住民の目線で見れば G グループの公園の方がよいと感じた。
- ・ただ、G グループは地域住民にいろいろヒアリングをしていたのだと思う。その結果、地域住民の「こうなったらいい」という希望を全部盛り込んでしまったのではないか。それでごちゃごちゃになってしまったのでは。
- ・C グループの提案では、「ここでやってください」というように使える場所が決められていて、公園を好きに過ごしたい人にとっては使いにくいのでは。公園を好きに過ごしたい人をどう回遊・滞在させるべきかを付帯意見として、事業者には考えてほしい。

⇒ ここで、優先交渉権者候補者を決めて、その後の議論へと進めたいと思うが、6人中5人が評価し、平均点としても上回っている C グループ を優先交渉権者候補者に選定してよいか。(委員長) → 異議なし。

C グループが優先交渉権者候補者という前提で、以後、それぞれの項目について、選定理由および付帯すべき意見を議論する。(委員長)

#### <実施体制>

##### ◆選定理由

- ・水族館、宿泊施設、にぎわい施設の経営を一体に行い、それを公園の管理運営に活かす仕組みとなっている。
- ・地域ブランディングに秀でたグループで、広域に影響力をもち、協議ができる体制となっている。(大手メディアグループがサポートする体制となっており、効果的な広報が期待できる。)
- ・組織体制について、G グループは [ ] を提案しているが、万が一の場合は [ ] を切り捨てる姿勢が見受けられた。姿勢として長期の事業をお任せするにはリスクが高いと判断した。C グループは、各社でどのような契約を結ぶのか分からないが、とりあえずJVで最後までやる姿勢が見られたので、体制としてはC グループの方が優れていると判

断した。

◆その他

- ・Cグループは、各社の契約内容をどうするのか？代表A社がトップとする協定なのか、水平の契約なのか。いずれにしても明確になればよいと思う。市としてはA社トップのほうに分かりやすいと思う。
- ・責任分担をはっきりとした契約とすることを求めたほうがよい。

<全体計画>

◆選定理由

- ・エリアブランドとして統一感を持った計画となっている。(Gグループと比較して意識されていた。)
- ・水族館の高い集客目標(安定期200万人)。大規模な追加投資の検討提案あり。
- ・広域観光、交通事業者との連携についての提案が具体的であった。

◆付帯意見・その他

- ・有料エリアとして入れないエリアが多い。入場管理の新しい仕組みを考えたら、もう少し無料で入れるエリアが広くとれるのではないかな。例えば水族館の海をのぞむ広場に公園利用者が入れる。オープンスペースまで有料エリアとしなければならないこともないのではないかな。公共性の観点からも、しっかりと検討してほしい。
- ・再整備事業の実施にあたっては、地元企業に出来る限り発注を優先すること。
- ・景観アドバイザー会議でストップがかかることがある。早急に景観協議にかけて、付帯意見を付けてもらう方がよい。
- ・事業全体のコピーとして「神戸にシャチを」はどうか。抵抗感がある人も多い。「Parks + Resorts」は神戸市が求めているそのまま。全体テーマとして、事業者の提案の特色のわかるコピーが必要では。水族館、宿泊施設、公園という3つの要素から、エリアの価値が市民に伝わるようなものと考えてほしい。「須磨」は入れてほしい。新しい須磨海浜公園となることを検討してほしい。(「海浜公園のある暮らし」のようなイメージ)
- ・南北移動について、ただ施設の間(オルカスタジアムとホテルの間など)を移動するだけという導線がある。海に行きたくなる工夫を考えてほしい。通りたくなる動線を。
- ・バリアフリー動線については、地面の舗装についても注意すること。

<施設ごと>

【水族館】

◆選定理由

- ・水族館としては分かりやすいコンテンツで、200万人という高い集客目標を設定。
- ・西日本で唯一、シャチと触れ合う機会ができる。
- ・アクアライブは施設としてよくできていると思う。
- ・海を借景としたショースタジアムの配置は立地特性を活かしたものとなっている。
- ・保全繁殖センターの提案(有識者あり)は評価できる。

- ・須磨コレクション（無料展示）で珍しい魚（ピラルクーなど）を展示している。

◆付帯意見・その他

- ・須磨・神戸ならではの展示がない。（盛り込んでほしい）
  - 「シーワールド」という名前はつけないでほしい。鴨川シーワールドの第2弾ができたいな発信をされると鴨川の2番煎じになってしまうし、その時点で安っぽくとらえられてしまう。シーワールドを誘致してきたという形でプロモーションを展開するのはではなく、オンリーワン・ナンバーワンにしてほしいから鴨川色を出さないでほしい。
  - はっきりと、選定委員会で「これはシーワールドの2番煎じではないか」という批判が出たので、これについては考え直しなさいという意見を伝えてほしい。ここは選定委員会では評価していないということをちゃんと理解してもらいたい。
- ・世の中のルール（シャチショー、イルカショー禁止など）が変わったら全部倒れてしまう。単なるショーではない、積極的な説明をしてほしい。今後の大型鯨類飼育のあり方などを有識者と考えていくということを説明してほしい。
- ・現水族園の標本の保管と活用方について検討すること。

【宿泊施設】

◆選定理由

- ・水族館と一体的な提案で神戸近辺の他施設との差別化が図られている。
- ・展開している全国のホテルとの相乗効果が期待できる。
- ・海のコンセプトを意識した外観・デザイン。

◆その他

- ・変に滞在型を押していない点も現実的でよい。
- ・客室単価高い。現実的か疑問。
- ・生きもの（ドルフィンラグーン）、宿泊者、一般利用者という3つのいのちを預かる施設であり、災害時にどのような運用となるのか心配（災害時の避難誘導方など）。

【駐車場】

◆付帯意見・その他

- ・団体バスについて、バリアフリー動線が分かりにくい（地面の舗装含め）。できれば車いす団体が入るときに、運用で担当者がくるなどの対応を考えてほしい。車いすタクシーなども観光バス乗降車場所で乗降できるとよい。
- ・特に夏場など、地元の人が通年利用できるような配慮が必要。地元の人に東の駐車場から700m歩いて西側の公園利用をさせるのは現実的ではない。

【にぎわい】

◆選定理由

- ・施設デザインに木質系を使っている点は景観に配慮されており評価できる。

- ・ローカルな（須磨海浜公園の立地特性を活かした）アウトドア体験の提案に加え、子育てのサポートの提案（知育スタジオ等）については評価できる。

◆その他

- ・雨天時の動線についての配慮が足りないのではないか。

【公園（園地）】

◆選定理由

- ・松林の保全活動をしっかり行おうとする姿勢は評価できる。

◆付帯意見・その他

- ・市民にとって開かれた公園となるよう配慮すること。
- ・地域コミュニティとして公園の使い方を議論する協議体などを検討いただきたい。
- ・利用にあたっては、少なからず利用者同士の意見の衝突なども想定される。これらを調整し、市民・各種団体の多様な要望が具体的に展開されるように、パークコンシェルジュは予約管理のみならず、コミュニティのサポート役（事務局係）を担ってほしい。（人員体制が不安）

【価格提案】

→ 事務局審査項目であるため割愛。

⇒ 講評・付帯意見は今回の議論を事務局と委員長で整理し、選定委員に改めて確認いただくことで合意。

採点結果の公開方については、評価項目ごとで平均点を公開することで合意。

以上

Cグループ ヒアリング (質疑応答)

委員

まずは、実施体制について、質問のある方。

委員

共同事業体ということだが、具体的には各社間の契約関係、各社が独立してコンソーシアム形式をとるのか、各社が出資をするのかなど、どのような結びつきとなっているのか。

事業者

まずは、開発する不動産については、共同事業体で共同持分で施設を保有する。ホテルについては1社で保有するが、それ以外は共有持ち分で保有する。共同事業体の結びつきとしては、共同事業の協定書を締結する。その際に、各社の役割等が記載されるが、代表幹事がA社というものになる。

委員

例えば神戸市が契約等を再整備事業者と締結する際の相手は、代表となるA社ということになるのか。

事業者

共同事業体と締結することになるが、代表者としてA社が全体を統括して契約する形になる。「共同事業体 代表 A社」という形。責任についてはJVである7社が連帯して行う。その窓口をA社が代表としてつとめさせていただく。

委員

責任分担については、項目毎に分けているわけではない？

事業者

そのとおり。●はA社、■はB社というような責任の分け方ではなく、全て7社共同で神戸市に対しては責任を負う形としている。

委員

設計の体制について確認したい。水族館のデザインコンサルに  の名前があがっているが、 は全体のマスタープランのデザインコンサルも行うのか、水族館だけを行うのか。

事業者

**C グループ** ヒアリング (質疑応答)

には水族館のデザインをみていただく予定としている。公園全体としては参画されていない。

委員

ここにおいてある(模型)の大きな水族館全体のデザインをが担当するという理解でよいか。

事業者

デザインはD社が行う。には、施設のオペレーションを踏まえた機器選定や水量の関係などについて、水族館の実績の多いので、チェックをしていただく予定。補足すると、はG社のサポーターとして、G社のプランを計画するコンサルと理解いただければ。

委員

魅力創造委員会を立ち上げて、ソフト的なところをサポートしていただくという提案となっているが、多様な方々に参画いただいている、具体的に、どうやってこれをマネージしていくのか。

事業者

まず、年間のイベントを期初に計画したいと考えている。その年間イベント計画の中でどういうものがふさわしいか、どういうものがあるべきか、どういうものは適切ではないというような議論をしていただいて、年間計画をつくりあげるまでを魅力創造委員会で行うことを予定している。

委員

協議体としては理解しやすいが、これがエリアブランディング、エリアマネジメントをするとなったときに、どこの会社が活動体としての中核を担うのかということを教えてほしい。

事業者

公園全体はSPMOが取り仕切ることになる。例えば1年間運営していくなかで、改善すべき点が出てくる。それを魅力創造委員会で、こういう事象があるけれどもどう解決するのかといったことを改革・改善、さらに魅力ある新たな施策といったものを魅力創造委員会で意見をだして進めていたいと考えている。実際にはSPMOで企画したものを魅力創造委員会で判断するといったことを繰り返しながらいいものにしていくという想定をしている。なので、先ほど冒頭に説明した年間計画についても、SPMOと魅力創造委員会の連携



**Cグループ** ヒアリング (質疑応答)

のなかで決めていくことを考えている。

委員

園内の管理運営に留まるというふうに見えたが、それ以外のまわりとの調整も含めて行うということではいか。

事業者

そのとおり。

委員

他に事業体制、事業方針について質問はありませんか。  
なければ、次に全体の整備運営計画について質問はありませんか。

委員

周辺環境について、駐車場の計算をされていると思うが、現在東側に集約するような計画となっている。繁忙期に、高速から降りてきて、右折 (U ターン) して入っていくということになり、現状より負担がかかると思うが、今の交通の状況で問題がないのか。また東に集約することで、西側の施設を利用したい人にとって非常に不便さを感じさせることになると思うが、そのあたりはどのように考えているか。

事業者

提案書の P.70 をご覧ください。まず、現状の利用者動向の予測ですが、今の海水浴期間の青い棒が来てる台数になるが、これに今回水族館でしている 365 日の値、公園のデータを足し合わせをして、365 日の概算値を出している。海水浴期間がピークで 1 年間で一番厳しいときになるが、交差点の需要率であったり、道路の混雑量としては基準値以下に収まっている。一番厳しいのは衣掛町交差点。若宮インターで降りた車は、ここで 3 車線をまたがっていくのは危険であることから、U ターンをしてさらに海浜公園前まで来て右折していくことを考えている。現状は交差点の使用率は 0.3 程度という数字。開業年のピークでいうと 0.69 となる。ただ、需要率は 0.9 という基準値はクリアしている。また、海浜公園前交差点においても現状 0.217 で開業年のピークで 0.357 ということで基準値以下に収まっている。若宮インターからだ、どうしても U ターンして右折という所作が必要となってくるが、私どもとしては、広域的な MaaS の導入なども含めて、一歩手前の湊川インターで降りていただいて国道 2 号から左折で入ってもらうように誘導していきたい。

二つ目の質問の、東側駐車場から各施設までの距離については、ご指摘のとおりであって、今の駐車場から、一番遠い、西側の施設まで約 700m ぐらいの距離がある。決して近いとは言えないが、こういった広域のレクリエーション・レジャー公園としては十分サービ

**Cグループ** ヒアリング（質疑応答）

スに耐えうる距離かと考えている。大半の施設はもう少し距離が短くなるものであり、問題ないと判断している。また、公園についてはあくまでも歩行者が主役になるものと考えて、駐車場は東に集約した。

**委員**

今の駐車場の話と関連するが、全体的な企画コンセプトとして、市民を対象とした日常的な公園ということと、それからもう一つはインバウンド需要も取り込んでいけるようなデスティネーションリゾート、その二つの共存という提案となっている。施設等の配置を見ると、東側にリゾート系の外から来ていただく集客施設をもってきて、西側が市民の利用する公園という形になっている。今の話で、駐車場は東端に配置されている。一般市民にしてみれば、50台ぐらいの駐車場があって、それを使うと、夏の海水浴客まで来るようになると思う。このへんについて、運営上の工夫など考えていることはあるか。運営だけでなく総合的に考えていることがあればお聞かせいただきたい。

2点めとして、今回特に海浜との関係は重要だと思うが、今でも水族園と海岸には境界線が引かれてしまっている状況。今回の提案ではイルカ棟、シャチ棟と松並木が設置されているが、基本的にはこの間には行き来できないということか。整理すると、市民の使い勝手とリゾートの共存の仕方について、海浜との関係をどう考えているのか、について教えてほしい。

**事業者**

まず、ゾーニングについて、西側に公園、東側にリゾートという大きな性格わけはあるが、あくまでも今回の計画は公園とリゾートの融合ということであって、公園にも観光客がくるし、地元の方も年間何度も訪れていただけるような水族館を目指している。駐車場については、東にあるものを市民の方も利用いただくということを考えている。西側には平面駐車場Cというものがあるが、50台ほどしかキャパシティがなく、おもには賑わい施設を利用される方の駐車場、またはバリアフリー用の駐車場として利用いただく予定。これを両方ともフリーに使っていくと、まず西側の平面駐車場Cが先に埋まってしまい機能しなくなると考えられる。なので、駐車場については基本的に東側を使っていただくことを想定している。台数が足りないのではないかといったご指摘もあろうかと思うが、先ほど申し上げた、公共交通機関の利用促進の取り組みも行っていきたいと考えている。この場所は、車だけではなく鉄道でも便利ということを知ってもらうような取り組みもしていきたい。

海浜との関係について、どうしても水族館の有料ゾーンがあり、普段は海側から入ることはできない。津波が来た場合など非常用に開放することが可能につくりになっている。

**委員**

**Cグループ** ヒアリング (質疑応答)

水族館の中央の広場も入れないということか。

事業者

ここは水族館の有料ゾーン。なので入れない。

委員

ホテル以外の夜間警備についてどのようにされるのか。

事業者

365日、24時間、定期的な巡回を行う形になっている。昼間については車両についての警備を行う。

委員

海岸沿いも夜間も警備を行うのか。

事業者

園内の周回警備を時間を決めて行う形。海岸は今回の提案範囲外であり、海岸の警備は行う予定はない。

委員

海上交通について、おもに神戸空港の国際化が進めばより効果があるということだが、神戸空港以外の想定があるのか。また、ヨットハーバーについて埠頭を整備してということが記載されていたが、今回の事業には含まれていないという理解でよいか。

事業者

まず一問目の質問に関しては、海上交通があればより利便性が高まるという認識をもっている。今回の提案のなかには、ふ頭整備ははいついていないので、神戸市との協議のなかでふ頭整備のやり方については相談させてほしいが、もしこれができるなら、ふ頭側からホテルのほうに入れるような動線を考えてはいる。

もう一つ、海上交通の事業者については、実はすでに何社かあたっているのですが、その可能性については大いに感じているところ。これも免許等様々な調整事項があると認識しており、神戸市と相談させてもらえればと考えている。にも話をし、この提案の有効性についてはお互いに認識しているところ。

委員

他に全体の整備運営計画について質問はありませんか。

**Cグループ** ヒアリング (質疑応答)

なければ、次に施設ごとの整備計画について質問はありませんか。

委員

イルカはスターであり、あれだけでかなりの集客力をもつと思うが、イルカを併設することの利点はどういったところにあるのか。

事業者

基本的に水族館の海獣類のベースとなるのはイルカ。これにプラスする価値としてシャチを考えている。イルカは必需品というような捉え方をしている。

委員

もしイルカをなくしたことで、コストダウンができ、その分入園料を安くすることは考えられないのか。あるいは二つあるのは派手だが、飼育員から何からかなりのコストがかかると思うが、そのあたりはどうか。

事業者

動物のコレクションとして、海獣類・鯨類を代表するのはイルカ。それに付加価値ということでシャチを考えている。今の私どもの考えの中では両方とも必要だと考えている。

委員

これがもし片方だけなら？シャチは集客を考えた場合必需品だと思う。日本で3か所目であり、あの10m近い海獣類を見たいという方は必ずおられる。水族館はスターがいないと立ち行かない。細かい所は目を多少つむっても、一つスターがいれば入園者はくると思う。そこで、イルカを辞めたことによるコストダウンで安くできるのであればどうだろうかというのが私の質問なんだが。

事業者

やはり、ベースとなるのはイルカ。

委員

なぜイルカなのか。

事業者

バンドウイルカとカマイルカを。

委員

**Cグループ** ヒアリング（質疑応答）

提案されているのはその種だが、イルカはいろいろ問題になっていますよね。繁殖ができるのならオーケーだが。

**事業者**

イルカの入手については、繁殖でやっていこうと考えている。シャチだけではなく、イルカとの対比というものもある。なので、イルカとシャチのどちらも必要だと考えている。

経済合理性でいうと、今考えている滞在時間は3～4時間を設定している。イルカがなくなると、滞在時間が短くなる。滞在時間が短くなると園内での消費単価が落ちる。つまり、イニシャルコストは落ちたとしても、ランニングでの収益が落ちる。結果的に経済合理性で考えると、滞在時間の4時間弱を満喫していただくためにはイルカとシャチのショーが必要と考えている。また、ふれあい体験について、シャチでは限定された人数しかできない。できるだけたくさんの方に海獣にふれて、学んでほしいと考えているとイルカが必要。

**委員**

イルカのふれあいはどこでやるのか。

**事業者**

イルカのショープールのとなりにビーチを設置する計画となっている。ここでふれることもできる。また、ホテル棟でもラグーンがあり触れ合うことができる。

**委員**

鴨川シーワールドではイルカとオルカの両方いると思うが、オルカのショーを見た人は必ずイルカのショーも見てから帰っているか。

**事業者**

基本的にはどちらも見て帰られていると思う。

**委員**

個人的には、乱暴な言い方だが、オルカは見たいが、イルカは見たいと思わない。オルカの集客力はすごいと思う。海遊館や美ら海にはジンベイがいる。大きな生き物は人を惹きつける。かなりのインパクトがあり、オルカは大賛成。ただ、イルカはいらないのでは。

**事業者**

確かに鴨川シーワールドではオルカを見ながら食事をできるレストランがあるが、毎日のように来てオルカを見て帰って行かれる方もいる。イルカはどうだというと、いるのか

Cグループ ヒアリング (質疑応答)

もしれないが、シャチほどではないのは確か。しかしながら、我々が今回目指すところは、神戸市からの要件でもありましたが、日本有数の水族館をつくろうと。総合的な我々が自信をもって提供できる、さらに、須磨水族園は今までイルカが大変人気な生き物であったことを踏まえ、このイルカがいなくなってしまうと市民の皆さまも悲しむのではないかと。いったことから、イルカなしの提案は考えていなかった。まして、集客が落ちてきたときにはベルーガも導入したいと考えており、総合的な水族館を目指している。

委員

ベルーガを集客が落ちた時に導入するというのは非常にいい提案だと思う。それまでの広場については水族館の有料ゾーンとしてクローズされている。災害時にはオープンするという話もあったが、ベルーガを入れるまで、この広場をオープンにする考えはないのか。

事業者

様々な計画を検討した際、オープンにするという計画もあったが、先ほど説明したように200万人の集客を目標としているが、都心部でシャチのショーのある水族館は日本で初めてになる。なので、250万人などの人が毎年きた場合、滞留する場所がなくなってしまう。そのため、少し丘にして眺望を楽しめるようにするとともに、休憩スペースやイベントスペースを設けて、館内に入った人のゆったりとした時間を過ごしていただく場所とさせていただいている。

事業者

先ほどの説明のとおり、開放するかどうかについては何度も議論を重ねてきた。その結果、滞留場所の確保の必要性からクローズにはするものの、災害時等の対応のために出入りできる箇所を設けることと、年数回程度のイベントの際には、これを解放するようなことも考えている。

委員

水族館の回りをずっとルーバーで覆っている。海側についても同じルーバー状になっているのか。また、海側に設備等が集中しており水族館の裏側のような印象を受けてしまうが、模型等でも見えている設備等は見せていくというデザインなのか。設備機器であれば隠していくことが条例等で決まっているが。

事業者

まず、フェンスについて、セキュリティ上の問題があるため、囲っていくことを考えているが、ただのフェンスではなく、もう少し工夫が必要だろうと考え、シャチの音声を画像にしたようなアートのデザインなどを考えている。また、松林をプロムナード・ランニ

**Cグループ** ヒアリング (質疑応答)

ングコースとして使用できるようなものになりたいと考えている。

また、大きな水槽があるので、どうしても設備機器が出てくる。これについては主に緑化をはかり、海との親和性を持たせたいと考えている。安全上についてはフェンスで囲って入れないようにすることを考えている。

委員

歩行者からは見えてしまうのか。

事業者

緑化して、視覚的には見えないようにする。

委員

ホテルの前にドルフィンラグーンというものを計画されているが、あそこは全くオープンな場所なのか。

事業者

ホテルの宿泊者を優先としてラグーンを楽しんでいただく予定としている。宿泊者以外も順番制になってしまうかもしれないが、ご利用いただけるものと考えている。

委員

これについては、オールシーズンか？春夏秋冬いつでもイルカがいるということか。

事業者

はい。

委員

ふつうイルカと触れ合うというのは、暖かい季節が多いと思うが、冬でもふれあいを行うのか。

事業者

確かに、夏の方が利用は多い。鴨川の例で言うと冬場でも楽しんでいただいている。

委員

鴨川でも今やっているのか。

事業者

Cグループ ヒアリング (質疑応答)

はい。

委員

普段、そのイルカは、トレーナーも配置してきちんと管理をされているのか。

事業者

はい。もちろん、係員が常駐します。

委員

非常にリスクな感じがした。極端に言うとなんなものはいらんというようなイメージが私にはある。

事業者

水族館に併設するホテルの魅力をあげるための一つとして、私たちはドルフィンラグーンが必要だと考えた。

委員

ホテルは全室オーシャンビューで、かなり感じがいいなというイメージをもったが、海の前に池があるので、これはなんだということを実は思った。提案をみるとイルカのラグーンと書いてある。ラグーンという文字には私は抵抗があるんだけど、あそこに別にイルカなんかいなくてももっと浜を楽しむような感じにして、水族館は水族館、ホテルはホテルという形でリンクしながらという方がいいような気がするが。

事業者

私どもで、ホテルの魅力を検討したところ、イルカを外で飼育して、イルカと触れ合っていたところを、日本ではほかにありませんので、やってみたいと考えております。

委員

他にないからといって、あっても仕方がないということもある。ちょっと疑問がある。あと、ホテルの部屋のなかに水槽があるものがある。これもものすごく疑問がある。たしかにいいんだが、レストランに水槽があって、シャチのところにレストランがあるのはものすごくいいアイデアだと思うんですが、ホテルの中の、スイートにちかい所で水槽を設けるのがどうなのかなと思う。こういったものは、もしいらないのであれば、コストダウンの方に持って行った方がよいのではないかなと思う。ずいぶん盛りだくさんにやっています。



**Cグループ** ヒアリング (質疑応答)

事業者

私どもとしては、水族館に併設されるホテルの魅力づくりの一つとして、限定的ではありますが、ホテルの部屋に水槽を設ける提案とさせていただきます。

委員

もし、ああいうところがあったら、泊まってみたいと思いますか。

事業者

わたくしは、はい。

委員

いいですか。質問を兼ねて。

コンセプトルームは今とても流行っているので、やはり全室ではなく一部いれておくことは必要なと思います。それからビーチ。管理区域以外のビーチ沿いのホテルとの差別化という意味でも、ドルフィンラグーンですとか、こういったコンセプトルームというのは水族館と併設しているからこそできることなので、私はこれはこれでいいと思っています。

一つ質問なんですが、水族館との併設、水族館の一番の目玉はシャチという話がありました。このシャチ棟に関してですが、このホテルや、神戸市の観光全域で今、インバウンドのターゲットとしているのは欧米豪のお客様なんですね。そして欧米豪のお客様からすると、反感というか反発をもたれる方、印象の悪い方もいらっしゃると思うが、そのへんの整合性はどのようにお考えか。また万が一今後、シャチの展示がまずいとか、シャチそのものの体調不良とかでシャチが見られないといった状況の時にそれ以外に差別化要素として、これは他とは違うんだということを、アピールするものがあるのであれば教えてほしい。

事業者

今のご質問は、シャチの飼育に関するご質問。

委員

シャチを見せ物にすることに対する反発などについて。

事業者

シャチやイルカといった鯨類の飼育に関して、反対する方は、おっしゃる通りいらっしゃいます。また、今後もそういった方々はなくならないと思う。ただ、世界で入場客数のベスト10の水族館の10園館すべてはイルカを飼育している。それから日本のベスト2

**Cグループ** ヒアリング (質疑応答)

0のうち80%がイルカを飼育してしまっていて、もちろん反対される方もいらっしゃいますが、それだけ水族館にイルカあるいはシャチをもとめていらっしゃる方がたくさんいらっしゃるということの一つの証明ではないかと私どもは考えております。あとシャチに関しましては、入場者数の世界のベスト5のうち3つがシャチを飼育してしまっていて、アメリカで主要な6つの水族館のうち3つがシャチを飼育してしまっていて、アメリカで最も入場客数の多い1番目、2番目、3番目の水族館がシャチを飼育してしまっています。ご存知のようにアメリカでもシャチやイルカの飼育の反対者という者もいるが、そういったアメリカにおいてもこのような結果が出てしまっていて、やはりシャチやイルカは水族館には大変必要な生物ではないかと考えております。

それから病気になったとき。確かに病気になります。病気になりましても、一つは非常に重篤の場合は医療プールがありまして、その医療プールに収容しまして治療を続けます。今〇頭展示することを予定してございまして、確率的に〇頭が同時にそのような重篤な状況になるということは、ちょっと考えづらいので、病気になった個体は医療プールできちっと治療をして、残りの個体を展示するというふうに考えています。

〇委員

ちょっと駐車場で細かい点なんですけど、東の方に集中的に設けられているので、それによって歩行者と車を完全にわけますよということですが、実際に駐車場から公園に行く通路ですね、歩行者がどういう経路でいくのかということについて、ちょっと教えていただきたい。

〇委員

同じ質問なんですけど、併せて身障者団体の動きも教えていただきたい。

事業者

駐車場を東のほうに設置してございまして。2つのルートを設定してございまして、一つはこれ、メインのルートなんですけど、国道2号沿いのゲートウェイとなる、少し幅の広い広場状の通路というものを、東西に、ここを通り抜けて公園のなかに入っていただく。

〇委員

駐車場からどうやってその歩道に行くのか。

事業者

一つは立体駐車場のほうからデッキを設けてございまして。立体駐車場の上の階層に停められたお客様はデッキから歩車分離、立体交差してこのホテル側の通路に。

Cグループ ヒアリング (質疑応答)

委員

2階レベルだけで繋がっているということか。

事業者

はい。2階レベルでつながっております。あとは、どうしても平面駐車場に停められた方がいちいち2階にあがるのではなく、直接グランドレベルでアクセスしたいという方もいらっしゃると思うので、その場合はこちらに、歩行者のルートを確認していく予定。

委員

身障者の方も同じですね。

事業者

はい、そうです。また、身障者の方を中心にプライオリティーパーキングを設置することを予定しており、通常より車室の幅を広くとり、直接、車と交差することなくアクセスできるように考えている。

委員

用途地域上、今の高さで、このままではいけないので、もし審査会が通らなければ、立体駐車場を2つにわける案を出されていると思いますが、その場合は、2階×2だと当然下の階の方も多くなるので、ますます平面的に交差しますよね。これはバス・車の駐車場と完全にクロスしているように思えるので、かなり多くの方が、その間をクロスすることになるのではないかと思うのですが、そのあたりはどうか。

事業者

まず、一般車については、入庫をこちらのほうから行って、こちらの場所は出庫口のみとなっています。ですので、台数のほうは入出庫が重複された数でないということ、またピーク時間はばらけた形で出庫台数は出てまいりますので、問題ないと判断しております。

あと、観光バスとかホテルの利用者の車両についてはですね、こちらは台数も限定的ということで考えておまして、あくまで歩行者の通行を優先で、敷地内の統制のほうはしていきたいと考えております。

委員

観光バスの方はどこで降りるのか。

事業者

観光バスは、ここに観光バス乗降場というものがあまして、ここでピックアップしま

Cグループ ヒアリング（質疑応答）

す。

委員

ただ、進入路と逆側ですよ。

事業者

そうですね。ここからは行って、こう出ていくようになっている。

委員

ロータリー的になっている？

事業者

はい。あとは、施設への観光バスが敷地内に停めるわけではないですが、20台ほどこちらに観光バス駐車場もご置きます。

委員

この人たちは、こちらに停めてから降りるといことになるのですか。

事業者

乗降場でおける運用を想定しています。

委員

トーチカのような形の水族館があるが、魚類・ペンギン館のことですが、この施設は大変よく工夫されていると思うが、瀬戸内ゾーンというコーナーがあったと思いますが、具体的な展示の提案がありませんでした。それで、「神戸」ということでしたら、やはり何か魅力的な展示がほしいと思うが、どうか。

事業者

アクアライブのなかの魚類展示ですが、2つに分かれており、前半の部分は六甲水系の淡水魚、そして瀬戸内海の生物を飼育する予定でおります。

委員

その予定なんですけれども、イメージ図がないんですよ。六甲水系の魚・水生生物といっても、取り立てて特異性のあるものは実はないんです。そういうことから考えますと、滝になっていたり、非常にいいと思うんですが、オルカのスターだけじゃなくて、脇役がきちんとしていないといけません。

Cグループ ヒアリング (質疑応答)

事業者

おっしゃる通りで、地元の生物を中心に、地元の生物を飼育するつもりで、特に瀬戸内海の展示のなかでは、アマモの水槽、50tの大きなアマモの水槽で、これは日本でここまで大きなアマモの水槽はないですけども、それを今計画しておりますのと、それから瀬戸内海の生物、干潟の生物や鯛やタコの水槽を今のところ想定しています。それで、もっと突っ込んだ瀬戸内海の生物のいろいろなものは、私共、まだ地元詳しくないものですから、今後地元の生物相等を勉強いたします。

委員

そうですね。おっしゃっていることが皆全然ちぐはぐになっているんですね。

事業者

今後の展示に活かしてまいりたいと思います。

委員

アマモだけ見せてもダメなので、あれにはいろんな生き物がおりますので。

事業者

もちろんアマモ以外も展示する予定です。

委員

その見せ方が、まったく具体的な提示がありませんでした。ちょっと脇役があまりないというふうに思いました。

事業者

おっしゃる通りです。今後、情報を収集して、勉強して、さらにブラッシュアップしてまいりたいと思います。

委員

水族館について、それぞれ分棟に配置しているのはいいと思うんですけども、雨の日というのは、各分棟に行くときは、庇のついたデッキのようなものをつけるのか、傘をさしていくことになるのか。また、車いす利用者の方の動線として、各施設ごとにエレベーターはついていると思うんですが、施設間を移動する場合にどのような誘導になるのか、雨の日はどうするのかということをお教えいただけますでしょうか。

**Cグループ** ヒアリング（質疑応答）

事業者

まず、各施設については当然エレベーターやスロープがついております。身障者の方についてはまず、2か所エンドランスがあるんですが、そこにインフォメーションセンターを設けて必要があれば介添えしながら案内していく、インターフォンも用意するというのを考えています。基本的にはこのように分棟型になっていますので、シャチ棟に関しては傘を長くもつという状況になります。ただ、アクアライブ棟に行くにはですね、こちらの底の下から入って2階のレベルで入っていくことができるんですが、この渡るところは分棟で、それは傘を差しながら移動ということになるということで、多少の雨の日というのはあるんですけども、やはりここの、須磨の海の美しさであったり、その借景を取り入れながら移動していくという、そういう豊かさのほうを優先して、やはり体の弱い方であるところではそれなりのケアを、車いすを貸し出すとか、介添えを行うといったような形で、ケアをしながら分棟型の良さを盛り込んでいくというのが私たちの提案です。

委員

その場合、身障者には必ずサポートがついて、雨の日は何かしらの支援をしていただける？

事業者

はい、そのような予定でいます。

委員

私から2点質問があります。

ブルーガ棟の追加投資についてすごく良いと思う。いろいろなリスクもありますし。飼育はよいけどショーはだめというリスクもあったりすると思うんですけども、例えば30年たったときに、最後に200万人割ったときに、そこから建設はできませんよね。どれくらいの時期ならば、200万人をきったときにちゃんと追加投資をしていただけるのかということを開かせて頂きたい。

あと1点少し違う観点で、公園のマネジメントについて、須磨松林クラブなどをつくって、そこでいろいろ集約をして運営をしていくということですけども、ご存知の通り、神戸は市民活動が非常に盛んでして、いろんな活動の方がいろんなことをしていただける、それこそ、今いろんな提案をいただいている、子育て支援とか、松の保全とか、いろんな方々がいらっしゃる中で、もう少し踏み込んだ提案内容を聞かせていただきたいと思いますのでその点について、お願いします。

事業者

まず、ブルーガ棟に関してです。我々は先ほどの質問回答のなかでもあったように、日

Cグループ ヒアリング (質疑応答)

本有数の水族館をつくるということの中で、ベルーガはあったほうがよいという認識は持っていました。例えば八景島シーパラダイスでは、ベルーガだけではありませんが、ベルーガは大変人気な生物の一つで、それで連れてこようという意向が非常に強かったんですが、先ほどの繰り返しになりますが、都心部でシャチのパフォーマンスのある水族館の入場者動向というのが、調査をすればするほど上振れする可能性が非常にあるというなかで、最初からベルーガ棟をつくると、もともとは3年～5年後につくるという計画だったんですけれども、これを約束してしまったときに、非常な入場者が続いた場合、これは実現できない、実現しないほうがよい可能性があるなという思いがあったので、いったんこの計画から横置きにして、減衰した場合に必ずこれを持ってきますという形をとらせていただいた。もちろん、オルカラゴをつくって、さらに神戸生まれのシャチがここで生まれて、皆さま方に人気が出てくるということになると、減衰しない可能性があった場合には、このベルーガ棟というのは、もしかしたら入れないほうがよい、これももちろん行政と相談しながら物事を行っていきたくて思っておりますけれども、我々の希望はできるだけベルーガ棟を作りたいという思いが非常にあるなかで、このような形でご提出させていただいております。日本初の試みなので、ご理解いただきたいと思っております。ただ、鴨川シーワールドには複数のベルーガがおりますので、どこかのタイミングでもってきたいと。ただ、いつ、20年後という話になりますと、その後の事業期間が10年しかないということになりますと、の投資というのはなかなか厳しいと思っておりますので、その分岐点というものはあるかと思っております。より魅力のある施設にしていきたいと思っておりますので、行政の方と相談しながら進めていきたいと考えております。

事業者

C社のと申します。

先ほどご指摘がありましたように、神戸はすごく市民活動が幅広いということは熟知しております。まず我々が何をしたいかという、やはりこの力強く美しい松の景観を残していきたいと、それがまず頭の中にあります。それをどういう風の実現していくのか、ということで、当然業者だけの維持管理もありますけれども、やはり市民を巻き込んだ、一緒になって、今後未来永劫の松林を育てていくことを考えたいと。でそういうことによつて、やはり地域に愛される公園になるかなと思っております。まず、松林クラブをどういうふうにするかについて、今の構想段階ですけれども、まず、地域の住民や小中学校に意識調査をしたいと思っております。それらを踏まえてパークマネジメントの専門家や学識経験者などにお力添えをいただいて、委員会形式を作っていきたいという風に思っております。それで、そのなかで魅力づくりをどうしていくか、維持管理をどうしていくか、組織体制をどうしていくかということを確認したうえで、やっていきたいと。全国に松林について活動している組織もありますので、そこと連携を組むとか、そういうことをしていきたいと。その他の、もう少し広がった活動ということで申しますと、やはり公園ということ

**Cグループ** ヒアリング（質疑応答）

なんで、地域の方に愛される、地域が愛するということを考えるとやはり、花壇をつくったりとか、そういった地道な活動、それから清掃をしていく。清掃ばかりしていると面白くないので、地域の中で作っていく、松ぼっくりをつかったアートイベントであるとか、そんなことを皆さんと一緒に作っていききたいと。そういう風に考えています。

**委員**

それでは、事務局からの質問について、お願いします。

**事務局**

まず、水族館運営者についてですが、公募設置等指針では、「水族館の運営業務の役割に当たる者は水族館又は類似する施設の運営実績を有すること（P.34）」としています。また「供用終了（閉鎖）までの間の須磨海浜水族園の管理運営は、新水族館の運営を行う事業者を、議会の議決を経て指定管理者とする予定（P.16）」と記載しています。

一方で、ご提案いただいた計画では、水族館運営の実績を有するのがG社、これに対してまったく新しい子会社を2つ設立して、現在の海浜水族園の指定管理者と新水族館の運営をそれぞれ別の子会社で管理運営するという計画になっています。

公募条件としては、G社が直接に指定管理も新水族館の運営も行う。若しくは、指定管理も新水族館も同じひとつの子会社が連続して運営していただくこととなりますが、ご認識いただいていますでしょうか。

**事業者**

当然今後、指定管理になり、その後工事期間に入り、入園者数が非常に少なくなるといふときの期間について、指定管理を受けた事業者には損失が発生した場合には補てんをいただける、上限9億円、という形が要綱で示されています。

私どもの提案としては、指定管理を受ける会社と、新水族館を建てる会社を明確に分ける提案をさせていただいた。つまり、指定管理事業は市の補填対象となるが、新水族館の開発はその対象とならない。これを明確にして、会社の確定決算をし、それを実績のエビデンスとして提出させていただこうと考えている。このようなことをするためには、2社に分けたほうが合理的であると考えた。つまり、区分決算をする、これを適切に処理をなさないと、同じ人が、どちらでどれだけの仕事をしているのか、既存の水族園の管理運営と新水族館の建設事業の人の配分を明確にするためには、2社に分ける方が合理的と考えた。ただし、要綱では、指定管理を受けた事業者が新水族館を運営しなさいとあるので、どのようにすれば市民の税金について説明責任を果たしながら行っていかについては、神戸市と協議しながら行っていきたい。

**事務局**



**Cグループ** ヒアリング (質疑応答)

ということは、2社にわけず、1つの会社で指定管理と新水族館の運営を行うことも不可能ではないという理解で良いか。

事業者

そうですね。どういうやり方をすればよいかについては、しっかりと協議をさせていただきますと思います。

事務局

子会社を設立する場合、指定管理者の指定を11月の議会で行うには、9月中に法人を設立していただいて、10月中に各種照会や審査を行うスケジュールでなければ間に合わないものと考えておりますので、場合によっては2月議会での指定管理者の指定となることも考えられます。これに伴うリスクは事業者側の負担となりますのでご承知おきください。

続きまして、提案書P.130の一番右下に緊急排水を「取水管を通して自然海域放流」とあります。今回の事業区域は下水処理区域内ですので、飼育排水は汚水として下水管へ排水していただく必要があります。この点は計画を修正していただく必要がありますので、ご承知おきください。

事業者

はい。提案では海域放流としているが、もちろん、認めていただく必要があるものであり、協議のうえ、不可ということであれば、一時貯水槽などを設け、時間差で下水へ排水することも真摯に検討させていただきたい。今回の根拠については、水質汚濁防止法の特定施設として認識しており、この場合の海水排水処理施設の設置義務免除に関する事務取扱要領の第3条の2に該当するものであり放流可能と考えた。こちらの解釈であり、今後ご指導いただければと思う。

事務局

続いて、湾岸線の都市計画決定との交錯についてですが、提案における水族館の取水管の位置と、立体駐車場が建築審査会の許可を得られなかった場合の代替案のA-2駐車場が、それぞれ阪神高速湾岸線第8期の都市計画決定の線と交錯しております。

都市計画事業が事業化された際には、これらを自己負担にて撤去する旨の確約をしていただく必要がありますが、これについては対応いただけるということでしょうか。

事業者

計画道路については、計画決定のみで事業化されていない。道路事業者負担なのか、こ

## Cグループ ヒアリング（質疑応答）

ちら側の負担なのかについて、こちら側の負担でなければならないということなので、先ほどの取水設備の話も含め、事業決定される際には、様々な協議事項が出てくるものと思いますので、これも含めて綿密に協議させていただきたい。

### 事務局

続いて、特定公園施設のことについてお伺いしたいのですが、専門的な維持管理必要なもの、特定の権利を有するもの、維持管理、更新に多額の費用がかかるものについては、特定公園施設としての譲渡を受けられない場合も想定されます。具体的にはパークコンシェルジュ棟、アート遊具、モニュメント、高級ベンチなどですが、こういったものについて、もし特定公園施設として譲渡を受けられないという場合、設置許可等の手法で整備することは可能でしょうか。

### 事業者

細かな仕様の決定は、今後検討してご相談させていただきたいと考えている。そのなかで、受け取れない特定公園施設があるということであれば、それについては設置許可での設置も検討することも可能。

ベンチとアート遊具について補足する。図面にあるような、大中小の少しいびつな楕円形のをいろいろおいている。そこの周りをベンチにしようと思っているので、高級というわけではなく、長いというふうに受け取っていただいたらありがたい。アート遊具は、有名なプロダクトデザイナーと遊具メーカーが一緒になって開発したもので、随所の公園にも導入されている、量産品であり、いわゆる個別に、そのものだけを1つ1つを作成しているようなものではない。いずれにしても、今後の協議となる。

### 事務局

次に、平面駐車場 C について、にぎわい施設利用前提の料金設定なのであれば、駐車場 C もにぎわい施設として設置許可することとなるがよいか。

### 事業者

最終的な運用計画は決まっていないが、基本的にはにぎわい施設用の駐車場として提案した。これがにぎわい施設の一部として 440 円の方に該当するというのであれば、そのような形で対応させていただきます。

パークコンシェルジュ棟の利用者も使うことも考え、このような提案をさせていただいた。先ほどの議論を踏まえて、にぎやかしの施設であるということであれば、そのように対応させていただく。

### 事務局

**Cグループ** ヒアリング（質疑応答）

最後に、水族館のこども料金についてですが、水族館の市内中学生以下の特別料金にかかる事務について、提案書の P.123 を見ると、市が対象者への利用券配布や団体予約の受付事務を行うことになっています。この点については、水族館運営者側で対応できるようなオペレーションをお考えいただく必要があると考えていますので再検討していただけますでしょうか。

**事業者**

小学生、中学生などについて、私ども事業者側には神戸市在住であることを特定する術がありません。データでもっているわけではありませんので。その特定をどうするのか。および、当然のことながら、神戸市が公園使用料を上限に、一定の負担をしていただくにあたり、その証明として何を使うのか。これは市民の税金を使うものであり、これらを考慮したうえで、一例として今回このような提案をさせていただいた。どのように運用するのが最適かについては、今後協議をさせていただき、決めていけたらと思う。

**事務局**

公的な各種証明書類はいろいろあると思う。神戸市としては、中学生以下の特別料金に係る負担金が適切に取り扱われる方法であるかどうかという視点での判断はいたしますが、その方法については、事業者にて再度ご検討いただきたいと思いますと考えています。

以上

Gグループ ヒアリング (質疑応答)

委員

まずは実施体制につきましてご質問はありますでしょうか。

委員

実施体制で、今回、[ ]を提案されていますが、[ ]をすることによって倒産隔離によって長期の安定性を保って成長していけるというご説明だったのですが、そののちをもう少し詳しく。どうして[ ]だと安定して成長してくるのかということとか。

事業者

倒産隔離という観点から申し上げますと、基本的に出資を行った会社を、事業に影響を受けないように[ ]を組成いたしまして、その[ ]自体が独立した採算というかたちで機能するというを考えています。安定して運営が行われていく、もしくは[ ]が、安定というキーワードで事業が進められるかですが、[ ]の収支構造は、主に[ ]になっており、収支の構造は非常にシンプルになっております。それに資金調達観点から幅広い選択ができ、この選択によって長期の運営が担保されると、そういうメリットを考えてこのような提案をさせていただきました。

委員

[ ]、収支が安定しているなら必要ないのではないかと。

事業者

[ ]により、[ ]というかたちで、より細かく役割分担で[ ]。そうすることによって、[ ]は何をやっている[ ]かという、[ ]をやっています。長い事業期間の中で、例えば、新たにこの公園運営事業に参画したいという企業が現れた場合に、当然神戸市様の正田様をいただくことが前提となりますけれども、参画したい事業者には、「ではこの[ ]を見てください、こういう[ ]を行っています」と、[ ]が行っていますので、ご安心して[ ]にご参画くださいといったような、参画する窓口を広げて対応することも可能だと考えています。そういった観点から、[ ]、[ ]、[ ]とを明確に分けることにより、[ ]にした。

委員

そうすると、[ ]を必ず作っていると思うんですが、これは[ ]に[ ]

**Gグループ** ヒアリング (質疑応答)

\_\_\_\_\_を考えておられるということなんですか。

事業者

基本的には、\_\_\_\_\_ので、\_\_\_\_\_は当然ながら付きます。\_\_\_\_\_は原則\_\_\_\_\_は持たないように考えておりますが、\_\_\_\_\_な立場の会社を入れていて実行していきたいと考えております。

\_\_\_\_\_委員

設計管理における、総括責任者は今ほどの会社がされる予定なんですか。あと、水族館は3社協力者と書かれていますが、どの協力者がメインとなって主任技術者になるのでしょうか。

事業者

社名は公募条件から申し上げられません。私どもが設計管理の主体の会社になりますが、今回は、\_\_\_\_\_の我々は協力企業で、代表企業がまとめになります。しかし、実際には、運営を主体にした企業とずっと組み立てをしてきたわけで、生き物をどう見せるか、お客さんにどう対応するかということ、チームでやります。それで、市様に対しては運営する方が主体になります、もうひとつは、設計も施工方法も、たくさんの実績を持っていますので、生き物にも人にもいい形でこたえられるものだ自信を持っています。

\_\_\_\_\_委員

今の中ではどの協力会社の、1なのか2なのか、特にまだ決まっていないということでしょうか。

事業者

この事業のこれから基本設計に入っていくにあたって、それぞれのパートでどこの社が、どこの管理、マネジメントしていくかは概ね決まっています。ですので、例えば水族館などは極めて特殊な経験、実績が必要な施設なので、そのような設計ノウハウ・経験がある会社が担う、あるいは、ホテル、駐車場、にぎわい施設でも同じ考えで、基本的にはノウハウのある会社がそこを担当する形になっています。

\_\_\_\_\_委員

もともとホテル、水族館、公園以外に、温浴施設、スパのご提案をされておりますよね。これは特殊な施設だと思うんですが、そこはどこが、構成団体の中にそのような専門の会社がなく、その他支援企業の中に1社入ってますけども、そういったところが担うこと

Gグループ ヒアリング (質疑応答)

になるのか、それとも専門のあるところが担うことになるのか教えてください。

事業者

施設の所有あるいは設計、建設は、今、名前を伏せている構成企業、協力企業が行います。で、オペレートに関してはその他支援企業、社名が上がっています企業、を候補者として今のところ計画しています。

委員

続きまして、全体計画・整備運営計画につきまして、ご質問ありましたらお願いします。

委員

提案の大きな魅力の一つは、海浜方向に向かって、シームレスにつながっていることだと思います。提案では事業区域外の海浜の方にもウッドデッキのようなものがありますが、そのあたりは今後海浜側の管理者と協議されていくのかどうか、そのあたりの見通し、それから、実態そのようなものを作っていた時の初期の費用、管理維持費用はどのように考えておられますか。

事業者

今、区域外のところについてはイメージとして絵をかかせていただいております。まだ関係部局の方とも一切お話しはしていないので、特に、我々は公園から浜辺に対してシームレスということで、どうしてもあのあたりについても、公園と一体的に検討させていただきたいという意味合いで絵をかいております。ただ、絵柄としては、事業区域の中で一応高さとかそのあたりについては完結するような形で抑えています。よって、浜辺の方の区域につきましては、まだ関係部局の調整は行っていませんので、あくまでも当方での提案と。また、予算についても、一応提案はさせていただいておりますけども、今回どのくらいの予算があるかというようなところまでは現段階では算出しておりません。

委員

これからの協議ということは分かるんですが、かなりこの提案、魅力の、重要な部分になるかと思いますので、仮に、やっていいという話になった場合でも、やはり予算的なことですね、それは仮の提案はお持ちでないはずだと思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

事業者

正直申し上げて、仮の提案に対する予算は今は積み上げていないというのが現状です。

**Gグループ** ヒアリング (質疑応答)

委員

市役所がやるというご提案と理解してよろしいでしょうか。

事業者

計画自体は、事業区域内で完結できるという絵にしている上に、少し区域外に関してもつながるようにするのであれば、㎡あたり2万円から2万5千円くらいのグレードで今イメージをした絵は入れているという状態ということです。全て、これから区域外のことをもしやる場合は、港湾区域になりますので、みなと総局様との協議が必要になるというふうに考えています。

委員

はっきりというと、神戸市がやるということのご提案ということによろしかったですね。つまり、こちらのほうの事業でやるものではないと。

事業者

そうですね。はい。

委員

先ほどのプレゼンの中に、旅行商品の造成というお話も出てたかと思うんですけど、実施体制の中で、連携協力も含めて、見たところ、旅行商品は誰が作るんですか。

事業者

例えば水族館の旅行商品を作る場合、旅行エージェントと我々水族館オペレーターと協議の中で作っていくという形になるかと思います。

委員

旅行商品の主催者はこの中にはなくて、作ってくれる人を探して、依頼に行くという営業行為を行いますというお話ですよね、造成はしないということですね。造成って、旅行業登録をしているところが行う行為じゃないですか。

事業者

支援企業の中に第2種の旅行業をライセンスをもっている会社が今回はっております。そちらの方で着地型観光ということで、まず須磨海浜公園の方に泊まって、そこでインバウンドというところで、例えば神戸市の、いろんな施設間と連携して企画ができる会社さんが支援企業の中に1社ありますので、そういったところで旅行商品を開発していきたいと思っています。

Gグループ ヒアリング (質疑応答)

委員

そこが主体になって開発して、販売は？

事業者

販売もできます。

委員

やるということですね。はい、分かりました。

委員

公園の中にいろいろな建物が分散して配置していただいているんですけども、その中でデザインとして統一するルールみたいなものあるのか教えていただきたいのと、駐車場の壁面緑化をされるというお話がありましたが、そのほかに周りとの調和をするという点で工夫されるというところはありますか。

事業者

公園全体で一体感を持ったデザインであることが必要だと考えておまして、ベースの考え方であるランドスケープ全体が一つの公園である器のようなものになっています。その中で分散配置される建物については、それぞれ個性と統一感、というと、今、壁面緑化ですとか、カラー、白味というところで強調はしております。この事業を取った際には景観デザイン会議などにかけていくことは承知しておりますので、そこは設計作業を進めながら、調和のとれた景観を生み出していきたいという風に考えています。

委員

全体計画の中でそのコンセプトを活かそうとしている姿勢は分かるんですけども、実際その、次世代水族園というのがあって、環境未来へのメッセージを発信するものにした、ということが書かれているんですよ。その一方で、全体計画を見ると、例えば舗装面積だけ見ても、結構舗装されてて、水と大地と空をいう割には大地が舗装されていますね、とか、あるいは他の施設を見ても、例えばホテルが、エコホテルをコンセプトにしたような運営があまり見えてこない。ミスマッチしているような気がしないではないんですが、ここに隠された実はそうじゃないんですと、全体的に次世代型、環境未来を発信する様なものが具体的にあるんです、というようなものがあれば教えていただきたい。

事業者

もともと水族園という名前が付いた水族館は日本で二つしかないんですね。その走りで



**Gグループ** ヒアリング (質疑応答)

ある須磨ですが、その中で、先ほどからおっしゃられた緑をなんで使ったのかということですが、切り取った地表を加工してきたわけですね、それを何とか修復したいという考え方があります。そのような壁面緑化とか屋根緑化でもって。今おっしゃられた地面の方はといいますと、再生材の利用とか書いてるんですけども、どうしても雨でぐずぐずになったり、いろんなことがあるんで、透水型の再生材を使ったりとか、緑と水の循環ということ、なんとかその中でするとか、〇〇〇〇に近づけるということ、を提案書の中に3つくらい分散して、書いております。すみません、そのような方向でやらせてもらいます。

**委員**

全体の統一としか書いていないんですけども、西から行きます。マーケットテラス、キッズテラス、グリーンテラス、スパテラス、ヘルステラス、それから水族園ですね。どういう統一的なコンセプトで、これだけのものを配置されたのか、ちょっと分からないんですが。

**事業者**

いくつもの機能がある、多機能であるということで、単なる公園だけではなくて、水族園を中心とした、あるいは機能があることによって、賑わいが生まれるという大きなコンセプトのもとで、いくつかの機能をいまお話したようないくつかのテラスで実現しているということです。

**委員**

統一感というものが感じられないんですよ。やっぱり須磨の海浜公園、で、何かコンセプトがあって、諸施設があるというらえ方をするんですけども、これもある、あれもある、それもあると、なんとも言えない、乱雑というか、そのようなイメージを持ってしまう。これがほんとに人が来てくれて、それぞれの施設が仮に有料としてですね、来客があるのかどうか。そういうことは、どのようにお考えですか。

**事業者**

まずは当然、公園という大前提ですね。全て有料というわけではなくて、無料という公園の前提の中で、いくつかの有料といった賑わい機能として店舗があって、さっきおっしゃったようないくつかの機能があって、いたずらにあるわけではなくって、幅広く、いろんなターゲットに、いろんな方にお越しいただくという意味で、大テラスというコンセプトのもとで、展開されていくというものです。

**委員**

**Gグループ** ヒアリング（質疑応答）

幅が広すぎますよね。マーケットプレイスですけれども、お金を払って入るところではないですけれども、こんな端っこにあって、だれが何を買いに行くのかなって、イメージがあります。大阪に海遊館というところがありますけれども、非常に館に近いところに、マーケットプレイスというものがありました。非常に魅力的な場所だったんですけれども、数年もたたずに閑古鳥が鳴いてしまって、次々に展示内容や入る施設が変わってしまって、大変苦労されておられるんですけれども、これだけ離れてしまいますと、はじめから鳥が鳴くんじゃないかと思います。こんなところになんで温泉があるのかなど。スパテラスですよ。それと、ヘルステラスですか。地引網のところ。こんなところで誰が地引網なんかするののかというものもありますし。てんこ盛りで、統一感が全く感じられない。そこのご意見をお伺いしたい。

**事業者**

東西細長い公園で、まず、海岸全体をみると2kmの横幅がございます。その中央部がちょうど、この計画でいう西側のエリア、マーケットテラスのエリアになります。今回いろいろと地理を考えていく流れのなかで、水族園を拠点とした観光利用として賑わいを作っていくエリアは東側、で、西側はどちらかという地域の方が、今も例えばシーパル須磨で多様なサークル活動であるとか、趣味の会合とか市民利用を想定したエリアを西側に今回導入した。少し利用の用途としては西と東は違うという前提で、考えたということです。で、あと東側の地引網のところですが、今現在も須磨海岸で漁協の方と水族園スタッフとでやられているところがあって、それをもっと表に出していきたいという漁協さんの想いとかそういったところも聞き取ったうえで、観光利用としての取り組みと一体となったコンテンツをしていきたいなということでご提案させていただいたということです。

**委員**

やっぱりわからない。

**事業者**

補足させていただきます。わたしもいろいろと運営している会社なのですが、よく言われるのが、非日常的な空間なのか、地域の方が日常的に使う空間なのかというところで、今回やはりマーケットテラスだとか、そういったところに関しては、いろんな地元の意見等も聞いていの中で、やはり地元といかに生活空間の中で、運営をやっていくかという意味合いで、ちょっとすみわけを作ったような形になっています。その中で、やはり水族館側の方に関しては、やはり、旅行者だとかインバウンドというお客様が来ますので、そういった方に中心に使ってもらおう。逆に地域の方が、生活の中で、ライフスタイルの中で使ってもらえるようなところをですね、マーケットテラスだとかキッズテラスといったところで、利用してもらおうようなイメージで考えています。

Gグループ ヒアリング (質疑応答)

委員

もしあなたがね、この近所で住んでいた場合、どういう利用の仕方します？

事業者

そうですね。私も、やはり日常空間で公園利用をするというのと、その中で買い物をしていく、その中でワクワク感を持ちたいなというところがあります。ですので後の方に提案が行くんでしょうけど、やはりイベントだとか、例えば土日に行くところは賑やかだったり、地域住民としてここをいかに、今はこのような状態かもしれないですが、これをどう成長させていくのか、変わりながら、どういいものにしていくのかというところが、こういうハードに関して、運営の中で、育てていくというのはいいかなと考えています。

委員

最初からね、人がいかないところもあるわけですよ。

委員

今のお話を勘案して、質問をしたいと思います。今のような議論が起こるといのはやはり、魅力的な施設がいっぱいあって、今のコンセプトを実現されたと思うんですけども、やっぱりここで書かれているような、大阪城とか、ブライアントパークのようなと書いていますが、根本的にスキームが違うはずなんですね。そこはもう、普段からほっといても人が来る状態があって、その中にいい施設を作って、まともにやれば絶対人はもっと来るという状況です。ここについては、求めているのは、ここ自体のブランディングから立ち上げて、水族館とか今回の施設を含んで一体となって、エリアも含めて、盛り上げていきましょうということを求められているわけですよ。だから相当スキームが違うんですけども、僕の理解では施設の魅力でここに集客しようというように見えるんですけども、やっぱりそういった考え方なのか、もう少しエリアブランディングとか踏み込んで、エリアマネジメントなんかをしようと思っているのか教えていただきたい。

事業者

設計の人間ですがこれまで議論してきたことから申し上げますと、神戸市と横浜とか地形的にも歴史的にもよく似ています。それは日本が開国した後に、立地状態が似ていて発展してきた、中華街もあって。この須磨というところは、ご存知だと思いますが、博覧会で京都で行われて、開発されることになりました。その中で、今回、神戸市から、お題をたくさんいただいた、これにどうこたえるかということにずいぶん議論してきたのは、神戸市にあっても人口は減っているし、高齢化も少子化もしているわけです。その中で、今おっしゃられたとおり、この公園、Park-PFI という呼び方はいいんですけども、まあ、

**Gグループ** ヒアリング（質疑応答）

もし海だけに頼ると夏場に限ってしまう。水族館の集客も特に夏場が多い。春と夏に偏っている。これをどうやってオールシーズンにするのかということ。それから東西に長いもの、長いから分散したらいいわけではなくて、山と海と東と西をどうつなぐのかということ、特に地域の方たちが、水族館などの集客施設の利用だけでなく、公園でラジオ体操するなど地域の方がすごく使っている。そういう思いですね。この公園がわれわれのチームでどうやって地域の人に支えられながら、次の世代にどういうふうにつないでいくんだということを真剣に議論した答えが、環境と健康なんです。で、これは今説明した言葉によって、やっぱり、神戸市の新しいブランドとして持続性のあるメッセージとして伝えたいということ为先程来、はじめにもおわりにも6つのテーマを言ったのが、実はそれを具現化したいということなんです。だからここにディズニーランドとかいうユニバーサルを持ってきて結界を作るのではないんです。周りと広がって、周りと同化する、地域の人がここに出入りできるように、それをできるように考えたのが、今回の提案です。

委員

時間が押していますので、次の「施設ごとの整備・運営計画」の質問についていかがでしょう。

委員

西側にあるマーケットプレイスだとか、イメージパースにあるグリーンテラスだとか、これはどの程度は必ずやりたいことで、どの程度は今後の検討で変わってくるのでしょうか。そのあたりを教えていただきたい。マーケットプレイスは建物自体は特徴はないように見えるので、その中でこれから考えていこうかという風に見える。それとも逆にすでに検討されていて、ああいうところでも具体的に人が集まるということを考えておられるかどうか。

事業者

まあ数年前の事業の開始になりますので、具体的なテナントさんをクリップしているわけではないが、かなりの皆様の対話させていただいて、今名前を挙げさせていただいている協力者の皆様を含めて、かなり具体性の高い状態になっていると、プレゼンテーションのなかでもお話させていただきましたがイメージはできています。先ほどのご質問でもお答えさせていただいたとおり、水族園を中心とした東側のゾーンと、西側のほうは地域の皆様が日々日常として使っていただけるようなイメージで、物販機能を含めた施設配置としており、グランピングであったりということで公園を利用する皆さまが単なる公園だけでなく使っていただける機能をちりばめた内容で、かなり具体的な状態になっているというふうに自負しています。

Gグループ ヒアリング (質疑応答)

委員

アクアテラリウムの概念図で、生態系エコシステムというのがありますね。生態系システムという言葉、実はないんですよ。生態系がエコシステム。この中で自然を再現すると。生態系を再現すると。食物連鎖を再現すると。といううたい文句になっているんですけども、その淡水のところから、栄養分が下に流れ込んでいる概念図になっていますね。普通自然界ではそうなんです。窒素やリンが木の葉っぱなどで海に流れ込んでくる。それはあたりまえなんですけれども、この小さな空間で、人工的な空間でこんなことはたしてできるのかどうか。

事業者

確かに、この形のままで出来るとは思っていないところも一部ございます。ただ、この大きな外の水槽で、実は2015年から、強制的なろ過システムを使わずにどれだけ循環できるかというところの実験をしてまいりました。その中で、生物を飼って、強制的に常に管理しまくった濾過槽で、魚の寿命であるとか繁殖であるとか、差ができるというところを常に実験してきたんですけども、今回はそでラグーンというものを作りましたので、ぜひこのシステムができないかということチャレンジ的な所があるがやってみたいと思っています。確かに淡水の方から入って、全て栄養源が入っていくというところは、この規模ではなかなか難しいと思うんですけども、その水槽全体、小さな海水の方の水槽に流れ込むという形はとっていきたいと思っています。

委員

そうすると水が濁ります。

事業者

水は濁ります。濁るんですが、透明度を保たないと見えませんので、

委員

透明度を保つということは、栄養分を取り去るということ。基本的には矛盾した概念なんですよ。

事業者

水槽は濁ってくるんですけども、補水はしていけないといけないんですけども、強制的な引き込み型の濾過槽ではなくて、底辺濾過をかけてやっていきたいと思っています。

委員

実験的にそれは確認されていますか？

**Gグループ** ヒアリング（質疑応答）

事業者

はい。こんな大規模ではなくて小さな水槽ですけど。小さいといっても5トンクラスの水槽ではやってきたんです。なかなかその中で透明度を保つというのは難しいですけども、その中で、これは上から見る水槽ですので、このちょっと濁った状態の水槽でも見せようと思っています。ただ、種を見せようすると横から見せることになるので、その周りに種を置いたユニット水槽なんかを置いてですね、種を見せていきたいと考えております。

**委員**

このプランというのは、基本的にこれは絵に描いた餅であると。今おっしゃったことが仮にできたとしても、目的は別にあって、極端に小さな海のビオトープということになるんですけども、それがはたして意味があるのかどうかなんですよ。

事業者

一番やりたかったのは、透明度を保つために、薬剤を入れてやるとか、濾過槽を作ると…

**委員**

おっしゃっていることはいいことだと思うんです。でも、そういうものを目当てに閲覧者が来るのかどうか。それは実験的にはね、いいと思うんですよ。ところが水族館に、見に来る人たちが、そこまでおそらく求めていないし、仮にそういう概念をですね、見に来る人が理解するのは相当生物学の知識がないと分からない。そういうのがいいのかな、と私は思うんですよ。もう一つ、鳥が飛んでいてね、ダイブすると書いていましたよね、ゴマダラチョウが飛んでいましたよね。開放的な空間で可能なのかなと。

事業者

蝶は、2階のデッキのところに、鳥と蝶を囲った展示、回廊のところで閉鎖空間を作っています。別にですね。もう一つ、生態系システムについてですが、おっしゃる通り、実験的な、我々エンジニアなので取り組みをしないといけないんですが、今最近、脱窒、それから、サンゴとか海草を使った濾過と同じくらい、いろんなチャレンジをしています。で、できたら、いま中国ですけれども、五万十万㎡とんでもない水族館が出来ているなかで、大人の成熟した日本での、こういう展示施設は、深いいい話をもっともっと分かってほしいという意味で、取り組みたいと思っています。で、じゃあ、どうすんの、と言ったら、温度、おっしゃられるように、一つの末端、ラグーンの中で温度も、水の濁り状態も変わるので、あるところを仕切ったり、流入のところを透過性を持って見せたりというこ

Gグループ ヒアリング (質疑応答)

とを、提案書には書いてはませんが、議論をしているところです。

□ 委員

ラグーンそのものをね、見せるのであれば、天井はいらない。このバイオドームの上はいらないんですよ。ラグーンでね、干潟、潟。浅い海が続いているところですから、極端に言うとベネチアがそうなんです。そういうところは基本的に、濁ってます。濁って、透明に見せるということにどんだけの意味があるのかなということなんです、思うのは。

□ 委員

意味は、たぶん色んな…、確認にしたいことは、バイオドーム、ほんとにするのか、アマゾンの本社もカリフォルニアの〇〇〇〇も全部閉鎖機能なんです、ほんとにしようと思ったら、あんなにしないと無理なんだと思うんです。で、ここでするのは物質循環も含めてほんとにバイオドームにするということなのか、それともさつきおっしゃったような、できる範囲、横からの展示も含めて、鳥はゲージに入れて、ここはもう要はインスタレーションとして、ドームで囲って、そういった環境を作る、上から来たら濁ったらまず見えませんね。ほとんど。しかも遠くです。こういったラグーンの中でそういう従来のものを見るというようなことと理解したらいいのか、どちらなんでしょうか。

事業者

今おっしゃられた通りで、一部で、ただ、ちょっと補足したいのは、ラグーンという表現そのものも、おっしゃられる通りで、あの一般的なラグーンの定義という、コーラルシーの浅瀬のことを言うんで、その…

□ 委員

それもラグーンですよ。

事業者

そうです。その通りなんです。だから、ほんとは、入江とか潟という言いの方が正確なんです。

□ 委員

それとね、これ、ほんとに閉鎖系ゾーンならね、面白いんですよ。ほとんど植物園だと思うんですけどね、イメージとして。ただし、開きますよね。明石海峡の方に向かって開いている。それで風が抜けるようにという配慮がされていると思うんですけども、風は時には天井に向かって、巻き上げることもある。

Gグループ ヒアリング (質疑応答)

事業者

この開放部はですね、二つの意味を持ってしまして、南西が夏の風の主風向、北西が冬の風の主風向なんです。なので、南に景観的に開けているんですが、閉じるようにですね、手動で幕を閉じるように考えています。

委員

このままだったら、風洞実験をやらないと、使い物にならないと思いますね。

委員

ほかの委員の質問もおありかもしれませんので。とりあえずここは、いわゆる本当のバイオドームではなく、そういった環境をつくって水族館の展示を見ていただく施設というようなことと理解させていただきます。

委員

宿泊施設について教えてください。滞在型観光の拠点にするんだというふうに記載されているんですけども、ここでの滞在型観光というのは、具体的に誰がどの程度の宿泊をすることを意味しているのかな、と教えてほしいんですけども。ターゲットと滞在型って何泊位をイメージして、それに耐えうるサービスをどのように考えているのか。

事業者

宿泊についてお答えさせていただきます。ターゲットにつきましては、プレゼンテーションの中にもありますように、近畿圏を中心ということ、現在の須磨水族園自体はそういったターゲットになると思いますが、この公園につきましては、インバウンドを含め、日本、関東中心等、九州中心も含めて、ターゲットとしております。滞在型の泊数となりますと、だいたい、関東圏からは2泊、3泊を目途に滞在していただこうと考えております。そのうえで、海が見えるプールですとか、ルーフトップバーとか設定させていただいておりますので、そちらもご利用いただいて、あと、須磨水族園ですとか公園全体色んなマーケットプレイスを含めて、おもてなしをして、準備させていただこうと思っておりますので、そこで滞在していただく。インバウンドにつきましても、なかなか日本国内でも連泊が難しい状況なのですが、そこでもできるだけ2泊くらいはご覧いただいて、そこから九州方面へ行っていただいたり、大阪城、大阪、あと奈良とか京都へ行っていただくような拠点としていこうと。周辺住民の方がこれから人口減ということでどんどん減っていきますので、その上でもインバウンド含めて滞在型ということで提案をしていこうと考えています。

委員



**Gグループ** ヒアリング (質疑応答)

インバウンドも含めてということになると思うんですけども、結局 2 泊以上させるって、飽きさせない、食事の面ですとか、水族館の魅力とか、経営されていらっしゃるのと事業のむずかしさとか感じられていると思うので、このあたりのことをパークの中でどのように連泊させる、単なる商業施設の施設群にとどまらせないか、というところが一番大きなところなのかなあと。

事業者

今おっしゃったような形で、先ほどは説明がもれましたけれども、やはり海が目の前ですので、日本のおいしい魚をご利用いただくのと、あと周辺、須磨エリアにですね、あの著名なといいますか、名物のお店もありますので、インバウンドの方ですとやはり、日本の文化に触れたいというところが、多くあると思いますので、須磨エリア周辺の飲食店の方々と連携しながら、情報を含めて集めまして、楽しんでいただこうと考えております。

委員

水族館の部分のドームの下ですね、そのところが魅力だと思うので、そのあたりの実現可能性がどれくらいあるのか非常に気になります。ほんとの生態系を作れなくても、修景要素として見る、そして植物あと空というものが、ほんとにそこで感じられるようになっているならそれでありかなという気はするのですが、例えば、メインのパスに出てくるイルカがいる、あそこにイルカがいないの、となればだいぶ話が違うでしょうし、どの辺までは確実にできることで、どの辺は実際は別途水槽を設けて囲われたところでやるのか、そのあたりをもう少し聞かせてください。

事業者

ドームについては複数の構造シミュレーションをしました。ガラスを使うと高コストでかつ危険性が多いので、表皮は複数の使い分けをしようとしています。植物、水、水景なんですけど、光、風、水がセットでいるんです。全部閉じるとエネルギーが非常に多いうえに、かつ自然植生になりにくいので、開いているんです。これを実際にオフィスとか新潟のフィールドでかなりやってみまして、そこに滞留したものを堆肥状に乾かして使ったりもしています。生物については説明者を変えます。

生物については全てにおいて先ほどの循環のシステムの話はラグーンの一部を使うんですけども、そのほかの生物に関しては、何もできないものは書いておりません。

委員

メインパビリオン、本館ですね。アカマンボウ、あれは飼育したところは今ないと思うんですよ。たぶん、これ世界初。どういう風に。

Gグループ ヒアリング (質疑応答)

事業者

実はですね。私、全国の漁協を回った時にですね、で遠洋の、ハンエイ漁業のマグロ船の方とずっと魚を集めてきたんです。それで、その中で、アカマンボウを実際に持って帰ってきたんです。長期飼育はできなかったんですけど、輸送の段階まではいけたんで、これをまだ本格的にはやっていないので、チャレンジとしてその続きもずっとやっていきたいと。実は、アカマンボウは手に入ってるんです。

委員

で、個人的に申し上げますと、私としてはアカマンボウを生きてる姿を見たいと思っています。ですが、一般的に知名度は極めて低い。ほとんど知る人はいない。そういうものを求めて閲覧する人が来るのかどうか。

事業者

確におっしゃる通りだと思うんですけども、アカマンボウというのは、マンボウは知名度が高い。全然違う種類ですけども、アカマンボウというのは実は持って来たことがありますので、ちょっと勉強会をやったんですけども、思ったより知名度はあったので、まあなんとかこのまま、アカマンボウを入れることによって、アカマンボウを知ってもらおうという形で水族を入れてみたいという…。

委員

だけど、飼育もできるかどうか分からないし、

事業者

ここはチャレンジしたいと考えております。

委員

コストパフォーマンスも非常に低いかなあという。もしシーラカンスが入るのであれば、抜群の集客力だと思うんですよ。あれはできないですから。技術的には可能だと思うんですが、それとオニカマスを入れていますね。あれも知名度は低い。大きな水槽で泳いでいるもので、目玉にされている二つがですね、マニアックなんですよ。

事業者

現在の須磨水族園の大水槽はそのままトン数も全く同じですので、これは踏襲したいと思っているのですが、新たに入れるというところで、知名度あるやつを、ともいろいろ考えたんですけども、このようなマニアックなところになるかもしれませんけれども、いれることによって知名度を上げていきたいと、飼育員としてのチャレンジ精神を持って臨

Gグループ ヒアリング (質疑応答)

みたいところで提案させていただきました。

委員

飼育員のチャレンジ精神は大いに結構ですけども、それが一般に通用するとは思えない。大水槽の天井がオープンになっているんですか？

事業者

そうです。はい。

委員

雨水はどうするんですか。

事業者

上には、屋根が。一回空間に出て屋根があります。

委員

分かりました。

委員

時間を押していますので、あと一つくらい。なにかございますでしょうか。個別の施設、運営につきまして。

委員

提案書のP.22のところ、各種リスクのコントロール策とありますけれども、真ん中のところに、「神戸市と金融機関の直接協定」とありますが、なので、金融機関と神戸市さんとでダイレクトアグリーメントを結ぶと書いているんですけども、こういったことができますよ、ということですか。金融機関さんがオッケーですよと言っているのでしょうか。

事業者

そこまでではありません。

委員

はい、分かりました。

委員

最後に事務局から質問がありますので。

事務局

事務局の方からいくつか質問させていただきます。

原状回復の費用不足、リスクへの対応ということなんですけども、原状回復費用の積み立てにつきまして、万が一、事業破たんした場合においてですね、金融機関への通常は資金返済というのをされると思うんですけども、これよりも優先的にですね、原状回復にしっかりと目的通りにですね、充当されるということが、金融機関とのダイレクトアグリーメントでしっかりと確約される必要があると考えております。これについては、先ほどの話によりますと、これはあくまでこういうことをされてはどうですかという提案だということですので、金融機関とはそのような前提で融資についてのお話はされていないということなんでしょうか。

事業者

話はしておりますが、確約ということは取れていないので、そういう表現になってます。当然、ローンを調達するにあたって、このあたりを規定の中に、ローン契約の中で規定することによって、このあたりの担保ができると考えています。

事務局

金融機関は、我々として、市としてしっかりと確約が必要であるということをご認識していただいていると理解でよろしいでしょうか。

事業者

そうですね。はい。

事務局

続きまして、特定公園施設のことでお伺いしたいんですけども。整備後の管理費の低減に努めるということで、条件を付けさせていただいておりましたが、維持管理とかですね、更新に多額の費用を要するものですね、具体的にはグリーンテラスとかヴィラテラス前の水景施設でありますとか、長大なウッドデッキとかあると思うんですけども、これらについては、維持管理のご提案をいただいていると思うんですけども、例えばこれが傷んでしまって更新するような形になったりするとなかなか高額な費用が出てきたりということが考えられると思いますが、そういうものについては、特定公園施設として譲渡を受けることができないということも想定されるかなと思っております。そういう場合ですね、設置許可物件として整備するというようなこともご検討は可能なんでしょうか。

**Gグループ** ヒアリング（質疑応答）

事業者

今おっしゃる通り、今特定公園施設と設定させていただいていますけれども、そのあたりの施設について神戸市さまと話していく中で、民間の方が維持管理含めてやっていく施設という位置づけにしていくということは、当然、想定しています。そうなれば、今公園に投資している特定公園施設の額についてもその分は下げていく形になるのかなと思っています。

事務局

つづきまして、提案書の318ページ、既存の水族館の指定管理に関することなのですが、左側に、蓄養展示棟の開設とあります。この投資費用がですね、指定管理料に計上されているんですけども、確かに指定管理業務の中で利用する生物について、その飼育管理費であったり人件費というものを指定管理料の中でですね負担するということについては想定はしていたんですけども、ちょっとここでいう新たな施設の建設費用にこの指定管理料が充てられるということについては、少しちょっと、指定管理料で負担すべき範囲を越えているのではないかなというふうに認識しております。この蓄養施設の建設費用、あるいは、最終的には撤去されるかと思うんですけども、その撤去費用について、新水族館の開設準備に係る費用として計上するということはできないでしょうか。

事業者

その件に関してましては、協議がない中で、蓄養に係る費用として認められるという情報のみで、計上させていただいたものですので、協議させていただいて、判断していただけたら、そのように対応します。

事務局

もう1問伺います。水族館について障害者割引が設定されていると思います。水族館の料金については公募設置等指針において、民間水族館の水準を上回る割引率とすること、障害者割引についてですね、ということとしております。またですね、平成31年2月に公表いたしました須磨海浜水族園・海浜公園再整備に係る基本的な考え方、こちらの中ではですね民間の水族館の割引水準として、5割引きであったり4割引きというような施設を例示させていただきました。こういった施設はですね、並んだ中でですね、この民間水族館の割引水準、これをどのように踏み込んだ設定とされたのか、そのお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

事業者

ちょうど今、障害者の方の入園料の減免については、半額として設定させていただきました。いくつか事例をピックアップしていった中でですね、半額であればということなん

G グループ ヒアリング (質疑応答)

ですが、ここの部分に関して、より踏み込んだものが達成できてないという話であれば、また、意見等頂戴したいところが本音のところですか。これが、仮に4割、3割であったら事業計画が成立しないと話になると、そういう話でもないのも事実でございます。あわせて、市民の子供料金の減免についても、実際神戸市に負担が発生する金額になるので、一方的に当社の方から提案させていただいている料金設定に関しましても、ご意見を頂戴したいというのが本音のところでございます。

事務局

今の料金設定だと、48%引きになっていると思います。なので、それは我々示した水準に対して、どの程度踏み込まれて、設定されたのかを分からなかったんですけども、ここはまだ協議の余地があるということでしょうか。

事業者

はい。

事務局

分かりました。

次に駐車場についてですけれども、駐車台数の設定の方がですね、休日の年間平均台数を基に設定されていると思うんですけれども、公園全体で入込数をかなり見込んでおられると思うんですけれども、駐車台数が足りなくなるようなことはないかということをお心配しています。特にですね、ピーク年のピーク日には駐車台数は2倍以上の必要駐車台数を見込んでいることとなりますけれども、実際このような状況になった場合、どのようにご対応されるおつもりなのかお聞かせください。

事業者

今、見てます容量、おっしゃる通り、休日のピークということなんですけど、例えば、開園時、海水浴シーズン、3000台以上必要と想定させていただいています。これについては、当然もう事前にある程度公共交通機関、その他の交通手段で来ていただくということをお呼び掛けて、少しでも車の利用を抑えていくことでありますし、周辺の駐車場と連携して、そちらにも回せるとか、というようなことも今後の課題であろうかなと思っています。それと、渋滞対策ということも考えれば、ピーク時には2号線には誘導員を配置すると、様々な方法をやろうということですが、いずれにせよ、本当にピーク時についてはまず公共交通機関を使っていただくようにというようなPRが最初に必要ではないかなというのが現実の提案ではここまでしか想定できていないというのが現状でございます。

事務局

Gグループ ヒアリング（質疑応答）

案定年でも、平均で設定されているので、半分くらいはその想定の数値を越えるということになると思うので、その場合も多いときには今おっしゃられたような対応を検討されるという考えでしょうか。

事業者

はい。具体的に他の施設との連携とかいうようなところまで今回は調整できていませんので、そのあたりの調整も十分図ったうえで、なるべく対応できるように今後検討していかなければならないというように認識しております。

事務局

最後にあと 1 問なんですけれども、特定公園施設の件ですね、先ほど委員の先生からの質問の一部重複するんですけれども、事業区域外に整備されるもの、おそらく浜辺との境界にデッキができていないかなと思うんですけれども、その辺の施設は特定公園施設の整備費に含まれていないと考えてよろしいでしょうか。

事業者

はい、含んでいません。

事務局

境界上にまたがっているウッドデッキも含まれていないのでしょうか。

事業者

含んでいません。

事務局

分かりました。ありがとうございます。

以上